



# 月刊 千葉労働動力

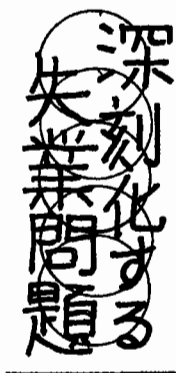
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

96.1.26 No. 4333

## 「ワークシェアリング」「軍需生産」叫ぶ JR総連革マルを許すな!

### 「大失業攻撃」 と対決し、JR 総連を解体・一 掃しよう!

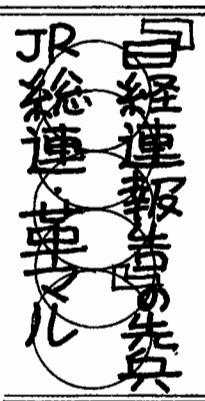


世界経済の長期不況の中で、失業問題が深刻化しています。

「全世界の就業人口の約三〇%、八億二千万人が失業状態」「一九三〇年の大恐慌以来最悪の危機的状況」と報告した、ILO (国際労働機構)。OECD (経済協力開発機構) も、「OECD加盟二五カ国で三千五百万人、八・五%の失業者」「七二年から八二年の一〇年間で失業者は三倍になった」という報告を出しています。

日本においても、マスコミで「大失業時代」がとりあげられる状況です。日本の失業率は、九五年六月以来、一〇月まで連続して三・二%を記録し続け、一一月には最悪の三・四%を記録しました。完全失業者は二百十八万人のぼり、敗戦直後をのぞけば戦後最悪の失業情勢に突入しています。

日経連は九五年度の定期総会で「新時代の日本の経営―挑戦すべき方向とその具体策」という提言を発表し、「大失業時代」における日本の企業のあり方、労使関係のあり方をうちだしました。それは、賃金、雇用破壊、戦後労働法制の解体、福利厚生



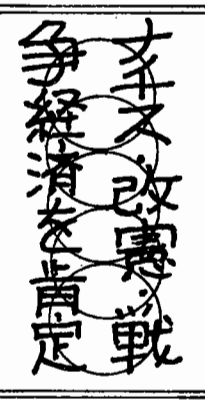
こうした中で、JR総連・革マルは、労働者を「日経連報告」に屈服させる先兵として登場し、分割・民営化のときとは比べようもない大裏切りを開始しています。

引用が長くなりますが、この間の松崎発言にこのことがもつともよく表れています。「半分首切ると言われてスト

ライキで解決できるか。できない、ストライキで解決できるほど世の中甘くない。ストライキよりは理性である。ストライキよりはワークシェアリングについてみんなで労働を分担しよう。そのかわり、従来の賃上げはもう無理である」「自分の労働時間を半分にしてくれという要求をする。その代わり、賃金は半分でいい」(松崎発言)。

ワークシェアリングとは、大不況下の企業業績の悪化のもとで、大量解雇をさげると称して社員の労働時間とそれに該当する賃金の何分の一かずつ返上して、それを解雇予定人員の労働と賃金にまわすという運動です。

JR東労組は、こうした立場から組合内にワークシェアリング研究委員会を発足させ、組合員を「もちろん賃金の減額はさげられず、一時的にこれまでに生活レベルがさがることになる」「これまでのように雇用も賃金も要求するというわけにはいかない時代が目の前まできている」と脅しているのです。



松崎発言を続けます。「いちばん利益を上げるのは戦争だ。したがって日本の産業も軍需産業に移る。これは歴史の必然だ。もっと失業者が登場していくときに、ナチズムが登場していく

好むと好まざるとにかかわらず登場することになる」(松崎発言)。

「失業という言葉は一番の問題なわけである。日本では予測するのには私は軍需生産ということになる。そうすると邪魔になるのは武器輸出三原則である。一方、憲法の見直しがあるわけだ。他方、武器輸出三原則の見直しがある。当然、あらゆる武器が自由に海外に売れるということになり、作ろうということになる」

「(景気対策)最後に何が残されたかと言うと、それは軍需生産である。きれいごとと言ってられない。理想を食って生きていくわけにはいかない。だから軍需生産でも何でもやって、食っていけるようにしなければしょうがない」(松崎発言)。

まさに、「ワークシェアリング」と「失業対策としての軍需生産」を主張する「JR総連型労働運動」は、「大失業と戦争の時代」に対応したファシスト労働運動にはなりません。

JR総連・革マルは、JR東当局の意を体してストライキ圧殺、リストラ協力を進め、自分たちこそが連合の右翼社員よりも役にたつのだと日経連に売り込もうとしているのです。

全労働者の怒りを結集し、日経連報告・帝国主義の大失業攻撃と対決し、その手先、JR総連・革マル打倒へたたかい抜こう!